

多民族社会におけるアイデンティティの形成・分断・再統合 —ヴォイヴォディナ地域研究確立に向けて—

●内容

本企画は、セルビア北部の多民族地域ヴォイヴォディナ自治州の地域特性を考察する脱領域的な国際ワークショップとして構想したものである。ヴォイヴォディナ地域研究の出発点として、専門とする言語やディシプリンの異なる参加者たちがそれぞれの経験や知識を共有し、国際的な研究者ネットワークを構築することを課題とした。

今回のワークショップでは10を超える民族的マイノリティの事象が話題となったが、そのなかで明らかになったことのひとつとは、それぞれの方向性の違いはもちろんあるものの、多くの民族的マイノリティが互いに似通った問題を抱えているということであった。また、アイデンティティの多重性と錯綜のありようをフォローし続けるということの困難についても様々な事例から意見交換がなされた。

●今後の課題

(1) 村単位で民族構成の大きく異なるヴォイヴォディナでは、コミュニティ単位での綿密な調査が必要不可欠であり、また言語や文化の保持ということを考えた場合には、内部に入ることすら難しいような閉鎖的なコミュニティにこそ足を向ける必要がある。

(2) マイノリティ民族の言語権運動はどのような推進力によって維持されるか、EUなどの国際組織、NGO等の活動はその役割を担うのか、また民族的マイノリティ同士の協働関係が国内・国際的なレベルでどのように結ばれているかについてもさらに調査していく必要がある。

●プログラム(使用言語:英語)

第1セッション「ヴォイヴォディナ社会の背景」

報告者: ボヤン・ベリッチ(ワシントン大)、山崎信一(東京大)、岡本佳子(東京大)

討論者: 長與進(早稲田大)

基調講演

ビリャナ・シキミッチ(セルビア科学アカデミー)「Roma, Bayash and Ashkali in Contemporary Vojvodina: Hidden Minorities Perspective」

第2セッション「「隠れた」マイノリティ民族の現状

報告者: 亀田真澄(学振)、マリヤ・ドロヴァ(香港浸会大)、野町素己(北海道大)

討論者: 三谷恵子(東京大)

日時: 2014年2月2日(日) / 場所: 北海道大学東京オフィス



(上)ワークショップの様子
(左)ワークショップ後のエクスカーションの様子